

③工事中の排水計画

工事の2年次～6年次における年次毎の排水区分を設定した。工事中の雨水は、施工段階毎に浸透ゾーンI、II、III、南側仮設調整池の4つのいずれかに排水する計画とする（図-6.1.1(7)）。

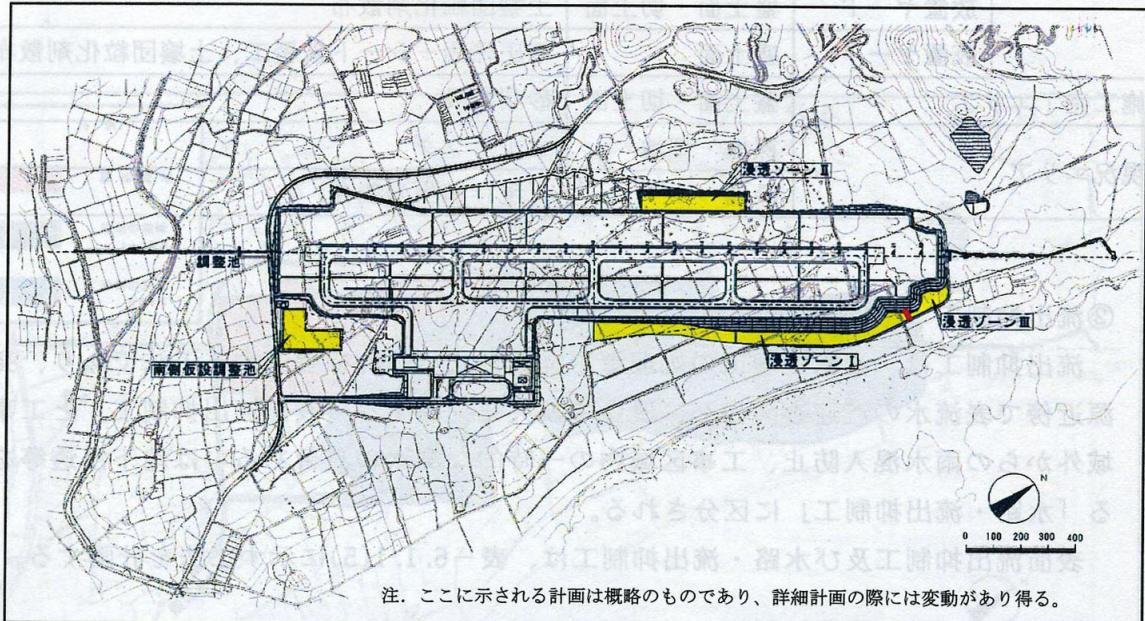


図-6.1.1(7) 浸透ゾーン及び南側仮設調整池位置平面図

(5)浸透ゾーン及び南側仮設調整池等の規模の検討

浸透ゾーン及び南側仮設調整池等の規模の検討に必要な降雨条件、規模の検討手法を以下に示す。

①降雨条件

ア)確率降雨

降雨データは「石垣島地方気象台」における1973年から2003年データまで使用し、確率雨量を算出した。31年間のデータについて、台風時等の降雨をすべて含んでいる確率雨量の算出結果は、表-6.1.1(6)に示すとおりである。

計画規模として設定した10年確率規模の降雨に対応する日降雨量のカバー率は図-6.1.1(8)に示すとおりであり、総降雨日数4,294日に対し、99.95%となっており、極めて高いカバー率となっている。

表土保護工は、雨水による表土の侵食を防ぐものであり、表土が直接雨滴の落下を受けないように土被り層を設けることによって、地盤の浸透量の増加や地下浸透の促進によって赤土等の露出を抑制する。本章では、図-6.1.1(4)に示す工法を計画する。